

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°6 ジャン・ジャック・モレル

生産地方：ブルゴーニュ

新着ワイン4種類♪

ACブルゴーニュ レ・ジュヌヴレ 2012 (白)

レ・ジュヌヴレは、元の所有者によってシャルドネの畑に一部アリゴテが混植された区画で、ジャン・ジャック曰く、収穫が遅くても酸がしっかり残っているのはアリゴテが一役買っているだろうとのこと。2012年は霜と雹の影響で収量が22 hL/haと例年の50%減…。だが、ブドウの房が少なかったおかげ、全ての要素がバランス良く凝縮した高品質なブドウを収穫することができた！味わいは、ジャン・ジャックのワインの真骨頂である旨味の詰まったミネラルは今年も健在！

ACサントーバン・ヴィラージュ 2009 (赤)

2009年は、高品質なブドウが収穫できたのに加えて豊作だったまれに見る当たり年！収穫時に少し傷んだブドウと完璧なブドウをケースに分けて、少し傷んだブドウは手で除梗選果し、全房のブドウと除梗したブドウをミルフィーユのように重ね合わせながら開放桶でマセラシオンを施している。ワインは、酸とタンニンがよい感じでこなれ始めてきていて、今がまさに美味しい飲み頃スタート！という感じだが、骨格がはっきりしているので、まだまだ熟成に耐えそう。

ACサントーバン・ヴィラージュ 2008 (赤)

2008年は、ブドウに酸がしっかりと乗った年！天候的には冷涼で雨が多くとても厳しかったが、最終的にはフェノールが完熟した素晴らしいブドウが収穫できた。実は今回が2度目のリリースなのだが、前回2011年に初リリースした当初と比べて、酸味がきれいにこなれピュアな果実味とうまく同調している！2008年は2009年に比べると、ワインはスレンダーでエレガントだが、アフターに残る緻密でしっかりとしたタンニンの収斂味から、さらなる長熟に耐えるポテンシャルを窺わせる！

ACサントーバン・ヴィラージュ 2006 (赤)

瓶熟8年を経て、ワインに丸みと落ち着きが出てきている！香りも、当初のブルーベリーから熟成を経てプルーン、マッシュルームなどの複雑な熟成香に変化している！味わいも芳醇でやわらかく、「熟成の極み」といえる美味しさが楽しめる！2006年は、収穫直前に一気にブドウが熟した影響で酸が落ちてしまった年だが、細かいタンニンが酸の代わりにしっかりと骨格を支えているので、ワインはまだまだきれいに熟成していくだろう！

ミレジム情報 当主「ジャン・ジャック・モレル」のコメント

2006年は、春に雨が多く気温も上がらなかったため、ブドウの成長が例年よりもゆっくりだった。発芽後に一時ミルデューが蔓延しかけたが、散布を適時に行っていたので、辛うじて病気を防ぐことができた。6月中旬に入り、太陽が戻ってきたおかげで開花はとてもうまくいった。それから夏の間はほとんど雨が降らず、春とは一転、ブドウが水不足に陥った。夏の間は、日照りの影響で成長にブレーキがかかっていたが、9月の収穫前にまとまった雨が降り、これを機にブドウが一気に完熟し始めた。ブドウの糖度が急速に上がり、反対に酸度が一気に落ち始めたので、予定を早めて急遽収穫に取り掛かった。

2008年は、春の気温が上がらず雨の多い不安定な天候の中スタートした。畑仕事も雨で土がぬかるんでいたため、トラクターでの作業ができず、散布なども手作業で行った。ミルデューが早くから畑に蔓延し始

めていたが、幸いこの年から選定方法をギューヨーからゴブレのような形に変え、ブドウの収量を大幅に制限したことで、悪天候でもブドウの腐敗が少なくなった。開花は例年よりも遅くまばらで2週間ほど期間がかかった。夏に入ってから冷涼で雷雨や夕立など天候が安定せず、ブドウの成長が滞ってしまった。だが、9月から一転天候が回復し、ブドウは徐々に完熟に向かった。最終的に、収穫は例年よりも2週間遅かったが、酸のしっかりと乗った素晴らしいブドウを取り込むことができた。

2009年は、質量共に近年まれに見る当たり年だった。春の気温は暖かく、雨がほとんど降らなかったため多少水不足ではあったが、一方でブドウが病気に襲われることがなく、散布の回数も少なかった。開花は全て順調。7月8日も太陽に恵まれ、適度に雨が降ってくれたおかげで、ブドウは問題なく成長した。収穫したブドウもほとんど選果する必要のないくらいきれいだった。

2012年は、霜とブドウの病気、雹の3つの災難に襲われた厳しい年だった。冬が暖かく、そのまま春を迎えて、発芽も例年より早く幸先の良いスタートを切った。だが、5月初めに霜が降りて、低地にあるピュリニーやサントーバン・レコンブの畑などがダメージを受けた。その後も、冷涼で雨の多い日が続く、ミルデューや黒痘病などが畑に蔓延した。そして、極めつけは6月30日にポーヌー帯に大規模な被害をもたらした雹！幸い、私の所有する畑は雹の帯の外だったため、被害はピュリニーとブルゴーニュの一部の畑で済んだが、もし500mずれていたら恐らく全滅だっただろう。そして、7月に入っても上着が必要なくらい気温が上がらない日が多く、この冷夏は8月まで続いた。だが、8月の終わりから天候が徐々に回復。すでに収量の落ちていたブドウは一気に完熟に向かった。9月の収穫直前まで良い天候が続き、収穫中は少し雨に当たったが、ブドウは糖、酸、ミネラルが全てバランス良く詰まった高品質なものを取り入れることができた。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

今年のヴァンナチュールのワインサロン「ディーヴ・ブティユ」に参加して以来、徐々に注目されているジャン・ジャック！現在彼のワインは、パリや日本はもちろん、その他オーストラリアで高く評価されている！

しかし、その勢いに水を差すかのように、目下畑の所有を巡る問題に頭を悩ませている…。現在3haある畑のうちの0.7haは借りている畑だが、今年になってその畑の所有者が老齢を理由に畑を売りにかけようしているのだ！畑の内訳は、ピュリニーの大部分、一部サントーバン白、そしてブルゴーニュ。通常フランスでは土地を買う場合、借主がいれば借主保護のためにまず借主が第一に買う権利を有する。つまり、ジャン・ジャックが優先的に土地を買うことができるが、よりによって畑はブルゴーニュの区画…買うにしてもヘクタール当たり何千万という大金を支払わなくてはならない。もちろん、小さなドメーヌをやっと切り盛りしている彼には、そんな大金は支払えないし、銀行に借りられる金額ではない…残念ながら現時点で名案はなく、彼はもうすでに畑を手放す覚悟を決めてしまっているようだ。

しかもその畑購入に名乗りを挙げているのが、どうやらビオではない大手のドメーヌなのだそうだ。「農薬漬けの畑を屈折10年かけて有機のリズムに変えた努力が一瞬のうちに水の泡となるのが本当に辛い」と彼は寂しげに語った。

突然の通告に動揺を隠しきれないジャン・ジャック。彼のワインにかけるあくなき情熱と反骨精神で、この窮地を乗り越えて欲しいと心から願っている。

(2015.8.13.ドメーヌ突撃訪問より)